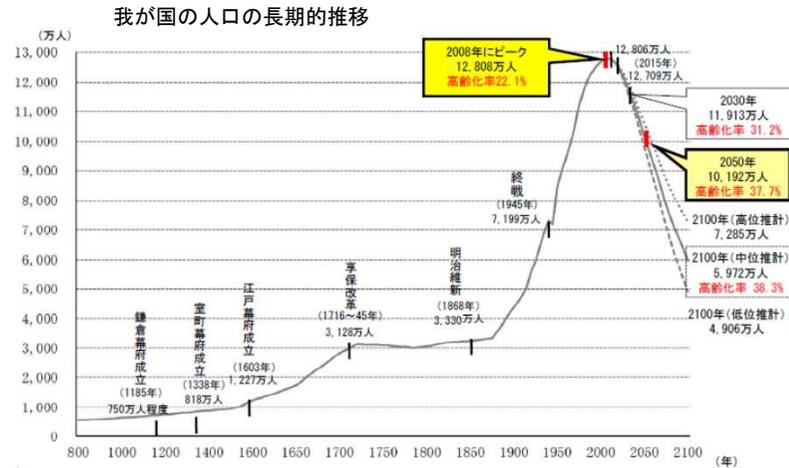


# グリーンインフラを取り巻く状況

---

# 1. 我が国が直面する状況

- 急激な人口減少(12,808万人:2008年 ⇒ 10,192万人:2050年)
- 社会資本の老朽化(建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に増加)
- 気候変動(短時間強雨(50mm/h以上)の発生回数は約30年前の約1.4倍、ヒートアイランド現象が進行)



出典：平成30年12月25日国土審議会計画推進部会企画・モニタリング専門委員会資料

## 急激な人口減少

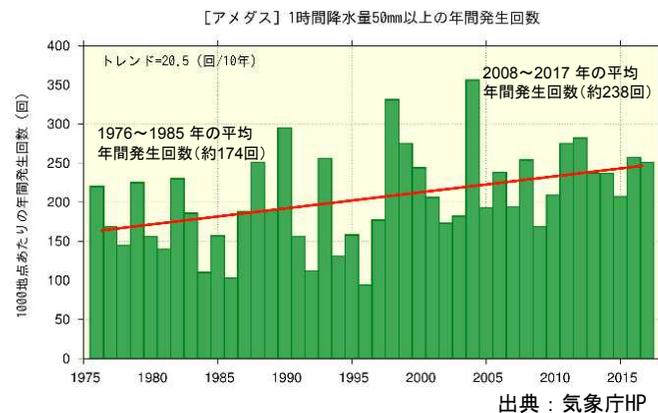
《建設後50年以上経過する社会資本の割合》

	2018年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋 [約73万橋 <sup>注1)</sup> (橋長2m以上の橋)]	約25%	約39%	約63%
トンネル [約1万1千本 <sup>注2)</sup>	約20%	約27%	約42%
河川管理施設(水門等) [約1万施設 <sup>注3)</sup>	約32%	約42%	約62%
下水道管きよ [総延長:約47万km <sup>注4)</sup>	約4%	約8%	約21%
港湾岸壁 [約5千施設 <sup>注5)</sup> (水深-4.5m以深)]	約17%	約32%	約58%

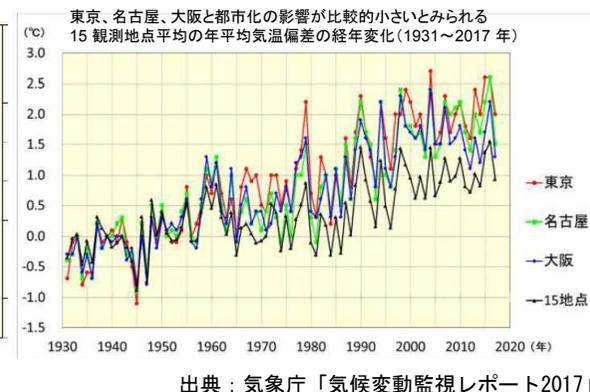
注1) 道路橋約73万橋のうち、建設年度不明橋梁の約23万橋については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)  
 注2) トンネル約1万1千本のうち、建設年度不明トンネルの約400本については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)  
 注3) 国管理の施設のみ。建設年度が不明な約1,000施設を含む。(50年以内に整備された施設については概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約50年以上経過した施設として整理している。)(2017年度集計)  
 注4) 建設年度が不明な約2万kmを含む。(30年以内に布設された管きよについては概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約30年以上経過した施設として整理し、記録が確認できる経過年数毎の整備延長割合により不明な施設の整備延長を按分し、計上している。)(2017年度集計)  
 注5) 建設年度不明岸壁の約100施設については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)

出典：国土交通省

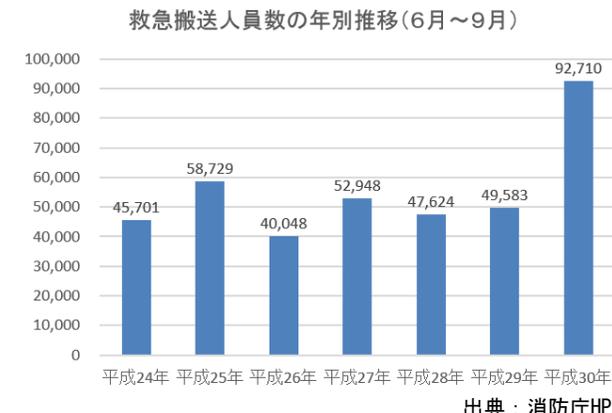
## 社会資本の老朽化



## 集中豪雨の増加



## 都市部における気温の上昇



## 熱中症による救急搬送増加

## 2. グリーンインフラとSDGs①

- 持続可能な開発目標 (SDGs) は2015年9月の国連総会において採択(17の目標)
- 17の目標は相互に関係しており、複数の課題の統合的な解決や、1つの行動によって複数の側面における利益を生み出すマルチベネフィットを目指すことがSDGsの特徴
- 自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるグリーンインフラの推進は、SDGsの目標達成にも貢献するものと期待

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



## 2. グリーンインフラとSDGs②

### 代表的なG I 取組事例：円山川の治水対策／同河川を軸とした生態系ネットワーク形成の取組

※公表資料等を基に総合政策局環境政策課作成



実際のグリーンインフラへの取組みにより、複数のSDGsの目標達成に寄与

# 3. グリーンインフラ推進に係る最近の取組①

## 取組事例：茨城県守谷市と全国初のグリーンインフラに関する包括連携協定を締結

○ 茨城県守谷市と福山コンサルタントは、守谷市の恵まれた自然資本を活用し、グリーンインフラによる地域課題の解決や地域活性化を目指し、市全体としての計画的なグリーンインフラ推進にむけた包括連携協力の協定を締結。

### 包括連携協力で目指すこと

○ 全国初の試みである計画的なGI導入

○ 自然資本を生かした新たなまちづくりを推進

#### 【当面の予定】

- ・今年度：市で部局横断的な勉強会やワークショップを開催。職員の意識の共有化、今後の実施施策を議論。
- ・来年度：初頭に推進組織を立ち上げ予定。
- ・次のステップでガイドラインを作成予定。

#### STEP 1 グリーンインフラ推進にむけた意識改革と体制づくり

- 市職員の勉強会ワークショップ、産官学民連携の検討推進体制・組織の立ち上げ
- 守谷市でのGIの理念の共有と、今後の市内のインフラへの適用方針の検討

#### STEP 2 官民連携による自然資本を活用した持続可能な事業立案

- 低未利用地のGI化と効果的活用（Park-PFI、ファームシェア、かわまちづくり…）
- 既存団体や取り組みとの連携や発展。ICT技術やクラウドファンディングの活用。

#### STEP 3 持続的な地域発展を目指した順応的なGI運用

- 地域団体や企業が中心となる、民間主導の持続的なGI運営と発展にむけた取り組み。
- 検討推進体制・組織による、市のGI施策の評価とマネジメント（PDCA）

### 協定に基づく専門コンサルタントの連携協力事項

- (1) 知的資源の活用に関すること
- (2) 人的資源及び物的資源の活用に関すること
- (3) その他目的を達成するために必要な事項に関すること

出典：守谷市ホームページ



建設通信新聞 2017.11.29

### 3. グリーンインフラ推進に係る最近の取組②

#### 取組事例：茨城県守谷市と全国初のグリーンインフラに関する包括連携協定を締結

- また、グリーンインフラの一環として、ホップを栽培しグリーンカーテンとして活用。収穫されたホップでビールを生産、地元商店での販売やふるさと納税の返礼品に活用。売り上げの一部はグリーンインフラの資金に充当。



市役所の中庭で育つホップ

# MORIYA GREEN BEER

Moriya city cultivated Hop's green curtain.

**飲めば  
守谷が“美しいまち”になるビール  
つくりました**

**2018年12月新登場  
約5,000本 市内限定販売**

このビールは、守谷市内で育てたホップを使用してつくりました。  
ビールの売り上げの一部は、グリーンインフラ資金として使われます。  
飲めば守谷が美しく活力のあるまちになるビールをぜひご堪能ください。

※守谷市内の5件の酒屋で販売しています。  
販売店舗：玉兼酒店（本町353） 東原酒店（本町3241-4）  
地引酒店（けやき台1-24-2）酒のふるや（野木崎385）  
松丸酒店（御所ヶ丘3-14-3）

FUKUYAMA CONSULTANTS CO.,LTD.

## MORIYA GREEN BEER を飲んで、 守谷グリーンインフラに ALE を！

**MORIYA GREEN BEER とは？**

MORIYA GREEN BEER は、守谷市と福山コンサルタントがグリーンインフラを推進する中で生まれたビールです。

**グリーンインフラとは？**

守谷には、かつては美しい森が広がっていました。ヤマトタケルノミコトが、うもそうと広がる森をみて、「森なる哉（かな）」と言われたことから「森哉（もりや）」になったと言われています。グリーンインフラとは、未来に向けて、残された自然の恵みを活用して、守谷を自然豊かな持続的なまちにするための新たな取り組みです。

**MORIYA GREEN BEER の仕組み**

売上の一部がグリーンインフラ推進（環境保全や緑化）に使われます

（1本あたり50円）

ホップが美味しい地ビールになります

守谷でホップを栽培します

ホップをグリーンカーテンとして活用します

**この MORIYA GREEN BEER は、**

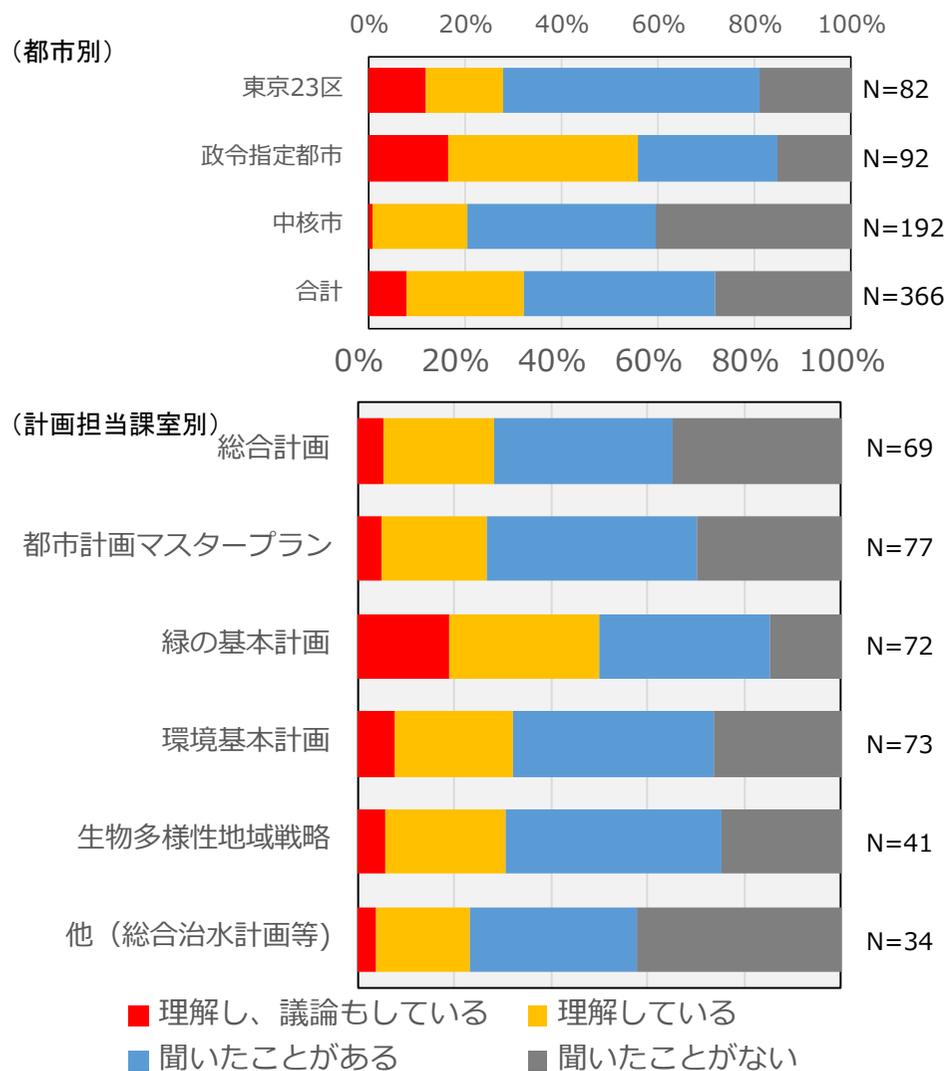
- ① 生ホップを使った特産ビールづくり
- ② 売り上げの一部で守谷をより自然豊かに
- ③ グリーンカーテンで省エネに貢献

という 一石三鳥のオリジナルビール です！

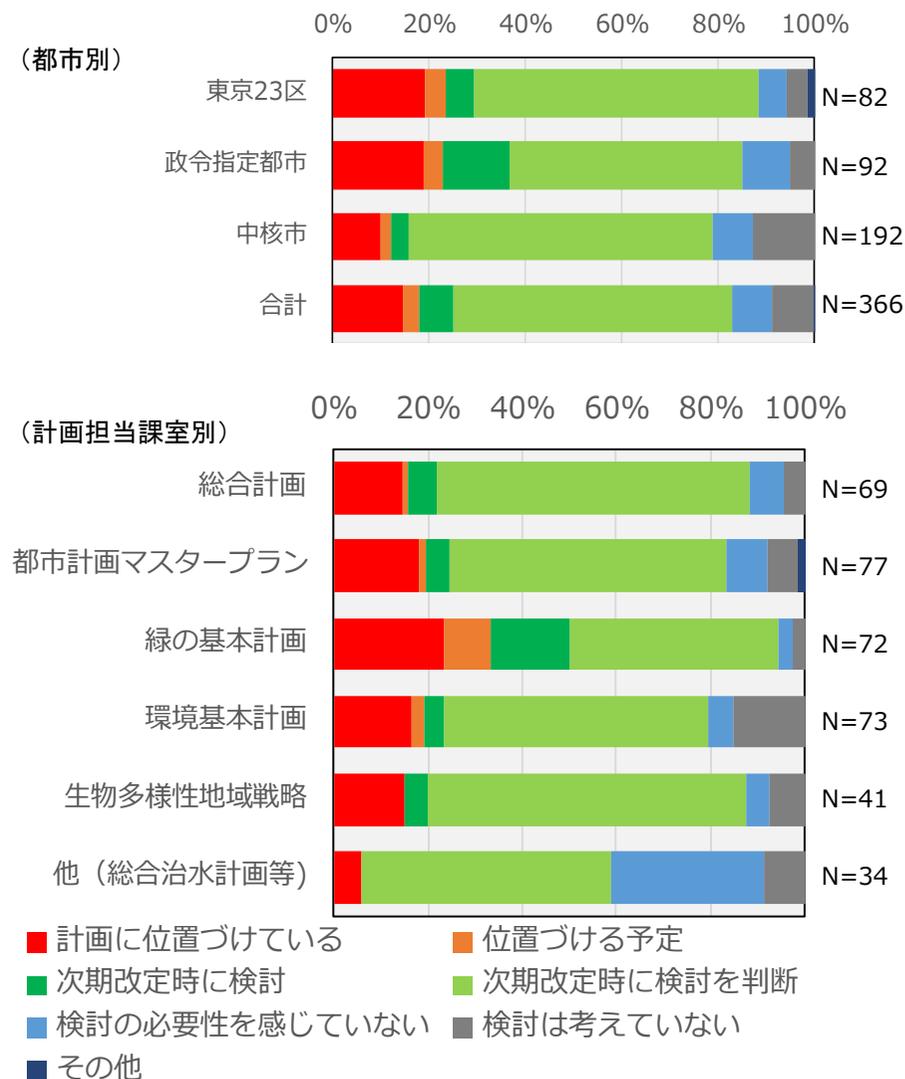
**【お問い合わせ先】**  
守谷市 企画課 TEL: 0297-45-1111 Mail: kikaku@city.moriya.ibaraki.jp  
(株) 福山コンサルタント 地域・環境マネジメント事業部  
TEL: 03-5805-8867 Mail: kankyo@fukuyamaconsul.co.jp

# 4. グリーンインフラを含む計画等の策定状況

## 【自治体におけるGIの認知状況】



## 【自治体の行政計画等へのGIの位置づけ状況】



(出典) 環境政策課(主要な行政計画へのグリーンインフラの位置づけに関する現状調査\*(2018年11月実施))

(調査概要) 対象都市: 東京23区、政令指定市(20)、中核市(54)、  
 対象課 : 総合計画、都市計画マスタープラン、緑の基本計画、環境基本計画、生物多様性戦略、その他(総合治水計画等)の担当課室